

おだわらを拓く力
ニュースレター
Powers!

着実に進む、課題解決やまちづくり

～市民の皆さんと共に歩み、10年を迎えました～

市民ホール、設計作業進行中



平成27年7月の入札不調以来、入念に検討を重ね実施した公募型プロポーザルにおいて、昨年12月に3者の応募案から鹿島建設・環境デザイン研究所共同企業

体が優先交渉権者として選ばれました。厳しい財政状況を踏まえ建設費は当初予定より10億円減額の63億円に抑えながら、その中でも市民の皆さんからの要請をできる限り実現すべく、1月に事業協定を締結後、直ちに基本設計作業が始まっています。この間、文化団体などとの意見交換が重ねられ、シンプルで使い勝手の良い、質の高いホールの姿が、着実にその像を結びつつあります。順調に進めば6月には基本設計が完了、実施設計を経て、年度内の着工を目指します。

小田原城住吉橋、架け替え

架橋から28年を経て傷みの進んでいた住吉橋の架け替えが完了、3月4日に渡り初めが行われました。先代の橋を手掛けた故・芹澤伸明棟梁から受け継がれた伝統工法により、息子である芹澤毅棟梁ら小田原の匠たちが、曲線美を備えた橋を見事に蘇らせました。銅門に向かう正規登城ルート上に、多くの来訪者を迎える誇るべき名所の誕生です。



地域コミュニティの目指す姿、策定



市長就任以来、「持続可能な市民自治のまち」の最も基礎的かつ重要な枠組みとして、市民の皆さんと共に育ててきた地域コミュニティ。平成27年度末には市内26の自治会連

合会全てで、諸団体が手を携え課題解決を進める「地域コミュニティ組織」が立ち上がっています。その形や働きは各地域の状況や特性に応じて様々ですが、最終的に目指すべき姿について、そろそろ共有しておくべきとの考えから、昨年「地域コミュニティ組織基本指針」を策定。組織構成、役割、機能、事務局や拠点などの在り方につき、一定のイメージをまとめました。各地域での「市民と市長との懇談会」などで説明し、意見交換を進めています。

おだわら市民学校、キックオフ



様々な分野で深刻化する課題解決の担い手不足を克服すべく、官民協働によるまちづくり担い手育成事業を始めます。名付けて「おだわら市民学校」。3月14日には東大名誉教授の神野直彦氏を招いてキックオフミーティングを開催。福祉、環境、子どもの育ち、農業、観光、文化などの分野における民間諸団体の実践活動をフィールドとした、共に育つ学びの場を順次開いていきます。

様々な分野で深刻化する課題解決の担い手不足を克服すべく、官民協働によるまちづくり担い手育成事業を始めます。名付けて「おだわら市民学校」。3月14日には東大名誉教授の神野直彦氏を招いてキックオフミーティングを開催。福祉、環境、子どもの育ち、農業、観光、文化などの分野における民間諸団体の実践活動をフィールドとした、共に育つ学びの場を順次開いていきます。

旧片浦中学校、新たな学び舎に

平成21年度に閉校後、利活用策を模索してきた旧片浦中学校が、この4月、「星槎国際高等学校」の通信制のスクーリング校舎およびスポーツ専攻生の寄宿舎として生まれ変わりました。若い人たちがここを拠点に学び暮らすことで、地元の皆さんとの交流も生まれ、片浦地域の活性化にも繋がるでしょう。



加藤市長からのメッセージ



早いもので、この5月で市長就任から丸10年。様々な分野の課題解決と、次代を見据えたまちづくりの仕込みなどに、多くの皆さんと共に取り組んできた成果が、具体化の局面を迎えています。今年は、小田原市長 加藤憲一 二宮尊徳先生の映画化、北条早雲公五百年顕彰事業など、内外に小田原を発信する好機。大いに盛り上げましょう!